

2025
Ango

新
た
な
る
展
開

ス
ト
ー
リ
ー

安吾

ANGO SAKAGUCHI

安吾の会 2025 読書会

新潟市出身の作家で、太宰治や織田作之助らとともに、終戦直後に活躍して「無頼派」と称されている坂口安吾。『墮落論』や『桜の森の満開の下』などの作品によって、いまでも多くの人々に影響を与えています。その安吾の作品を読み味わう「安吾読書会」が今年も開催されます。4月から9月までの毎月第2土曜日、16時から18時まで、全6回開催。場所は「新潟教育会館」です。

また、5月10日と9月13日の13時30分から15時30分まで、「安吾まち歩き」が開催され、安吾の唯一の実子である坂口綱男さんが案内します。まち歩きと読書会の、両方のご参加も歓迎しています。

日時 / 4月~9月の毎月第2土曜日 16時~18時

会場 / 新潟教育会館 新潟市中央区西大畑町590-3 tel.025-222-2971

参加費 / 500円

申込方法 / 新潟・市民映画館シネ・ウインド (tel.025-243-5530)へ電話にて申込

■街歩き

安吾ゆかりの地めぐり 案内/坂口綱男

坂口安吾の長男で唯一の遺族である坂口綱男さんが、安吾の生家跡や学校をサボって日本海を眺めた寄居浜など、ゆかりの地を案内します。

日時 / 5月10日(土)、9月13日(土)13時30分~15時30分

集合場所 / 新潟教育会館前 新潟市中央区西大畑590-3

参加費500円 定員10名 ※事前の予告なしにイベント内容が変更になる場合がございます

申込方法 / 新潟・市民映画館シネ・ウインド (tel.025-243-5530)へ電話にて申込
問い合わせ / 安吾の会事務局 (新潟・市民映画館シネ・ウインド内 tel.025-243-5530)



坂口綱男さん

◆第1回 4月12日(土)

「坂口安吾と三島由紀夫

—〈天皇陛下にささぐる言葉〉と〈英霊の声〉のあいだで—

案内人: 齋藤良助 (「安吾の会」会員)

使用テキスト: 「天皇陛下にささぐる言葉」「日本文化私観」
「英霊の声」「文化防衛論」

◆第2回 5月10日(土)

「全集未収録『織田の死』とその周辺」

案内人: 本多俊介 (「安吾の会」オダサク倶楽部「会員」)

使用テキスト: 「織田の死」「大阪の反逆」太宰治「織田君の死」
織田作之助「二流文楽論」「可能性の文学」ほか

◆第3回 6月14日(土)

「1946年の安吾」

案内人: 上田晃之 (劇作家・演出家) 使用テキスト: 「いづこへ」「戦争と一人の女」ほか

◆第4回 7月12日(土)

「安吾と半藤一利と安吾賞…」

案内人: 篠田昭 (元新潟市長、新潟青陵学園理事長)

使用テキスト: 「日本文化私観」「安吾さんの太平洋戦争」

◆第5回 8月9日(土)

「誤配と誤読の果てに伝わる真理」

案内人: 大原祐治 (実践女子大学) 使用テキスト: 「アンゴウ」

◆第6回 9月13日(土)

「日映時代の安吾」

案内人: 森沢真理 (新潟日报社) 使用テキスト: 「日映の思い出」「魔の退屈」「白痴」

問い合わせ: 安吾の会事務局 (新潟・市民映画館 シネ・ウインド内) tel.025-243-5530



2025
Ango
坂口安吾
(さかぐち あんご)

林 忠彦 / 撮影

1906(明治39)年10月20日、新潟市西大畑町に生まれる。旧制新潟中学から東京の豊山中学に編入学、小学校の代用教員を経て東洋大学印度哲学倫理学科卒。敗戦後の46年に「墮落論」を発表、「人間は墮落する。義士も聖女も墮落する」というメッセージが廃墟に佇む人々に衝撃を与え、一躍脚光を浴びる。以後、太宰治、織田作之助らとともに無頼派の旗手として小説、評論、エッセイなど旺盛な創作活動が続ける。日本の伝統主義や権威の欺瞞性を批判する鋭い文明批評を展開し、戦後の文学や思想に大きな影響を与えた。55年2月17日、桐生市の自宅で脳出血のため48歳で死去。主な作品に「日本文化私観」「白痴」「桜の森の満開の下」「不連続殺人事件」。日本の古代史や人々の暮らしを取材したルポ「安吾新日本地理」、「安吾新日本風土記」ほか。

安吾読書会2025 いずれも第2土曜日16時～18時 於:新潟教育会館

第1回 4月12日(土)

4/12
「坂口安吾と三島由紀夫—(天皇陛下にささぐる言葉)と(英霊の声)のあいだで—」

案内人: 齋藤良助(「安吾の会」会員)

使用テキスト: 「天皇陛下にささぐる言葉」「日本文化私観」(以上、坂口安吾) 「英霊の声」「文化防衛論」(以上、三島由紀夫)

天皇の全国巡幸を安吾はまっこうから批判した。天皇がただの人間になるところから真実の歴史が始まるのだ、と。三島は「などで天皇(すめるぎ)は人間(ひと)となりたまいし」と、天皇の人間宣言への呪詛の言葉を投げつけて、4年後に自決した。戦後の文学史・思想史における最大の対立を初めて浮き彫りにする。

第2回 5月10日(土)

5/10
「全集未収録『織田の死』とその周辺」

案内人: 本多俊介(「安吾の会」オダサク倶楽部)会員)

使用テキスト: 「織田の死」「大阪の反逆」「太宰治「織田君の死」 織田作之助「二流文楽論」「可能性の文学」ほか

安吾が織田作之助死去の翌日に書いた「織田の死」(「時事新報」1947年1月12日)は全集に収録されず、70年以上埋もれていました。その追悼文を発掘、公開(「日本経済新聞」電子版・夕刊、2019年2月15日)した当事者が紹介します。

第3回 6月14日(土)

6/14
「1946年の安吾」

案内人: 上田晃之(劇作家・演出家) 使用テキスト: 「いづこへ」「戦争と一人の女」ほか
戦後という時代を生きたとき、安吾が1946年に残した作品群は、いつまでも私たちを見放さない。戦争よりも自分自身を、女を、人間を見つめた安吾。そして戦後に次々と発表された広大な作品群。安吾が見ていたものは何だったのか。現在の私たちに、その言葉はどう響くのか、改めて確認したい。

第4回 7月12日(土)

7/12
「安吾と半藤一利と安吾賞…」

案内人: 篠田昭(元新潟市長、新潟青陵学園理事長)

使用テキスト: 「日本文化私観」(岩波文庫) 「安吾さんの太平洋戦争」(半藤一利著・ちくま文庫)

新潟市は2006年、合併記念事業を公募し、その一つに「安吾賞制定」が選ばれた。キャッチフレーズは「出でよ、現代の安吾」。文学賞ではなく、さまざまな活動を通して現代社会に“囀”を入れた方を表彰する、言わば「生きざま賞」。 「安吾さんの弟子」を自称する半藤一利さん(作家・元編集者)は第2回目の安吾賞ゲストとして、何を語ったか。

第5回 8月9日(土)

8/9
「誤配と誤読の果てに伝わる真理」

案内人: 大原祐治(実践女子大学) 使用テキスト: 「アンゴウ」

言葉にのせたメッセージはしばしば誤配され、誤読されてしまう。しかし、そうした誤配や誤読の積み重ねの果てに、期せずして何らかの真理が伝わってしまうこともある。戦火をくぐり抜けて焼け残った書物に挟まった暗号をめぐるミステリー仕立ての小説「アンゴウ」を、文学というメディアをめぐる寓話として読み解いてみたい。

第6回 9月13日(土)

9/13
「日映時代の安吾」

案内人: 森沢真理(新潟日報社) 使用テキスト: 「日映の思い出」「魔の退屈」「白痴」
坂口安吾は太平洋戦争末期、日本映画社に囑託として勤務し、3本の脚本を書いたとされる。だが、その詳細は不明だ。日映の囑託だった西村二郎(新潟日報社第3代社長)の日記などの新資料を使い、アツ島玉砕をモチーフにした幻の脚本に迫る。

●読書会各回の内容は変更になる場合があります。

◆新津「安吾忌」のお知らせ

～安吾が好んだ作曲家エリック・サティ演奏&桜の森満開の下全編朗読～

2月17日の安吾の命日に新潟市秋葉区で行われる安吾忌についてご連絡します。

日時 / 2月17日(月)13:00～16:00頃

会場 / 新津地域学園201研修室

内容 / 13:00～ 開会挨拶

13:10～13:30 エリック・サティ曲演奏

[ピアニスト 細山田昌子(長岡市在住)]

13:40～15:00 「桜の森満開の下」全編を朗読

[朗読家 加藤博久(長岡市在住)]

終了後、坂口家墓所にて、菩提寺住職により読経後お参り

※墓所で、甘酒提供(予定) ※墓参後、地域学園に帰り解散
申込先・方法 / はがき・FAX、メールなどで2月10日までに
お申込み下さい。

〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町2-5-6新津地域学園2F

阿賀浦コミュニティ協議会

FAX.0250-25-7655 メール agauracomiky@coral.plala.or.jp

問い合わせ先 / 阿賀浦コミュニティ協議会事務局 湯田
tel.080-1251-8096

◆安吾没後70年記念

「安吾と桐生展と講演会(藤沢周氏)」

本年は安吾没後70年を迎えます。安吾が最後に滞在した桐生の町で、記念の会を行います。

1. 安吾と桐生展

会期 / 2月28日、3月1日～9日(4日休館)

会場 / まちなか交流館(群馬県桐生市本町一丁目7番4号
tel.0277-22-1122)

時間 / 10:00～17:00 入場無料

2. 安吾没後70年記念講演会

日時 / 3月2日(日)13:30開会

会場 / 桐生鉦座(群馬県桐生市本町4丁目328 tel.0277-44-5921)

1部:高校生サティを弾く、高校生『漂流記』を朗読する

2部:講演会 藤沢周氏(芥川賞作家)「安吾の時代—来たれ安吾道場へ」

3. 懇親会

日時 / 3月2日(日)17:00開会 会費 / 5,000円

会場 / 美喜仁2階ジパング(桐生市本町4丁目78)

問い合わせ先 / tel.0277-22-7967 または 090-3694-4804

メール syoshi73@ktv.ne.jp

<安吾の会>

安吾の会は、1986(昭和61)年にA(ANGO)プロジェクトとして発足し、1987年10月20日に安吾の会となりました。以後、毎年、読書会、10月20日の安吾生誕祭などを企画・運営。季刊「安吾雑報」を発行するなどの活動を行っています。また、1月2月と10月から12月の毎月第1火曜日19時から、中央区礎町のクロスバール新潟にて定例会を行っています。